

令和6年度 愛知医科大学大学院看護学研究科 海外研修報告書

氏 名	看護学研究科 臨床実践看護学領域 大溝那奈	研 修 先	ケース・ウェスタン・リザーブ大学
学 年	1 学年次生	研修期間	2025 年 3 月 15 日～2025 年 3 月 24 日
主な 研修内容	・講義 (Health Care in the U.S., Climate Change and Health Nurses' Roles) ・高齢者福祉施設, ホスピス, がんセンター, 小児病院の見学 ・大学院博士課程の講義への参加、自身の研究計画についてのプレゼンテーションの実施 ・米国 NP のクリニック見学 等		
報告内容	1 志望理由と研修での具体的な学びについて (1) 志望理由 私の愛知医科大学大学院を志望した理由の一つが、海外研修があることでした。診療看護師 (NP) を目指すうえで 60 年ほどの歴史があるアメリカでの NP の実践を見てみたいと思い、迷わず希望しました。診療看護師 (NP) がまだ広く知れ渡っていない日本で診療看護師 (NP) として働く上で絶対に参考になる、視野を広げるチャンスになると思いました。 (2) 学んだこと プログラムの初めに教授からアメリカのヘルスケアについての講義があり、実際の病院やホスピス見学の際にとっても理解が深まりました。アメリカのホスピス見学で特に印象的だったのは、ホスピスを受ける際には、条件を満たせばお金を払わなくてよいこと、施設に入所しなくても在宅や病院でホスピスを受けることができることです。驚いたのは、ホスピスを受けるためには、透析など生命維持に必要な治療を辞める必要があることで、ホスピスへの移行のハードルが高いなと感じました。がんセンターの見学では、保険会社と契約した入院日数を過ぎたが、状態が安定せずまだ家に帰れない、でも保険がおりないためもうこれ以上入院できない、というときに利用する休憩場所のようなところがあり、アメリカの医療制度の現実を目の当たりにしました。ただ、病院の設備は患者や家族がなるべく家で過ごしているような環境を提供していたり、がん治療が終わった患者を祝福する鐘があったり、少しでも快適に過ごせるような工夫を施した外来治療室などが設備されていました。研究計画のプレゼンテーションは、英語での発表をするにあたってたくさんの先生方にお世話になり、前日には引率の先生方にご指導いただき、無事に発表することができました。この経験は私にとってかなり大きなハードルでしたので、乗り越えることができ一つ成長につながったと感じています。 今回、私のために計画してくださった NP のクリニックへの見学は、一番印象に残っています。医師は施設長としていらっしゃいましたが、実際に診察しているのは、NP でした。このクリニックに通う患者が住む地域の特徴、家族関係の特性、社会背景などを踏まえた患者のアセスメントをされていた姿、身体診察や問診をする上でも患者が何に困っているのか不安に感じているのかを大事にしている姿は看護師ならではの強みだと思いました。また、患者のカルテをみると、180 kg 近くの体重があり糖尿病ケトアシドーシスで入退院を繰り返す患者、アルコール依存の患者、虐待やネグレクトを受けていた患者など疾患だけでなく社会背景の複雑な患者が多く、また多くがアメリカの公的保険であるメディケア (主に高齢者)、メディケイド (低所得者) を受けている患者であり、対応が一筋縄ではいかない患者が多い印象を受けました。医療アクセスを困難にする要因に、貧困や病識の低さ、知能の低さなどがあると感じました。 2 海外研修への参加を考えている学生へのメッセージ 日本で看護師として働いているからこそわかる、日本とアメリカの医療の違いを体験できます。日本の医療の良さ、アメリカの医療の良さ、改善したほうがいいのではと思うことを学ぶことができます。円安ということもあり、研修にかかる費用は高かったですが、行ってよかったと感じています。働きながらであったり、英語、渡航費のことなどハードルは高いですが、行く価値があると思います。オフタイムもミュージカル鑑賞など楽しみました。		